2010年度　血液・造血器系Ⅰ

Ⅰ（東原）

1.　骨髄微小環境の造血における役割について

2.　造血の場が胎児から老人になるまでにどのように変化するか

3.　貧血の病態について

a)赤血球造血因子の欠乏

b)造血の場としての骨髄の異常

c)赤血球破壊の亢進

に分けて説明せよ

Ⅱ（東原）

選択問題

(1)リンパ節の構造と機能

(2)止血作用におけるvWF、コラーゲン、フィブリノーゲンの相互作用

(3)好中球の殺菌作用

Ⅲ（東原）

1.　細胞周期について説明せよ、また染色体検査に使われるのはどこの部分か

2.　点突然変異について（3パターン）

3.　細胞増殖におけるNFκB、カスパーゼの制御について

4.　HTLV-1のガン化機構

5.　輸血前の交差適合について

Ⅳ（東原）

1.　トロンビンが産生されるまでの過程

2.　トロンビンの制御機構について

3.　脾臓について

(1)正常脾臓の総重量は

　　(2)巨大脾腫の患者は、食事を少し摂取するだけで満腹感が生じる。その訳は。

　　(3)脾臓に対する自己抗体が産生された時、脾臓を摘出する方法がある。その訳は。

Ⅴ（壇原）

　正誤問題（授業プリントそのまま）

1.　造血細胞の多様性は、多様な造血肝細胞集団より生ずる

2.　造血細胞はその分化過程で分化の方向性を容易に変えることができる（例：顆粒系→赤芽球系）これをcross talkと言う。

3.　細胞周期にはG0、G1、S、G2、M期がある

4.　細胞増殖因子がそのレセプターに受容された際に起こる細胞膜電位の急激な変化によ　り増殖シグナルが細胞内に伝達される。

5.　造血幹細胞は自己複製能を持つ。

6.　造血幹細胞はG0期（休止期）にいることが多い。

7.　白血病幹細胞は正常な造血幹細胞と異なり、さかんに分裂増殖を繰り返している。

8.　白血病発生には細胞増殖に関与する遺伝子と細胞の分化に関与する遺伝子、双方の遺伝子の変異が必要である。

9. 急性白血病において、その予後を規定する因子の１つに染色体異常のタイプがある。

10. 骨髄球系白血病において細胞の分化に関与する遺伝子の転座は白血病の表現型と一致することが多い。

11. 白血病細胞は骨髄外で増殖することができない。

12. 白血病では肝臓での異常造血がしばしば認められる。

13. 白血病による貧血の機序は溶血によるものが圧倒的である。

14. 白血病で認められる脾腫の機序は骨髄での造血能低下に伴う脾臓での代償性の造血によるものである。

15. 白血病の合併症の１つに播種性血管内凝固症候群がある。